

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

| | |
|---------------|--|
| 事業名 | 信州子ども食堂ネットワーク食糧庫の設置運営事業 |
| 事業主体 (連絡先) | 特定非営利活動法人 NPO ホットライン信州 0263-75-8368 |
| 事業区分 | (2)保険、医療、福祉の充実に関する事業 |
| 事業タイプ | ソフト |
| 総事業費 | 918,122 円 (うち支援金 : 733,000 円) |

事業内容

昨今のコロナ禍における、令和2年度の4月から松本市本庄1丁目915「信州子ども食堂まつもと」峯村組ビル111㎡使用食糧庫に保管と各食堂で食材を受け取りに来て、子ども食堂などで活用。子どもを中心とした誰でも気軽にこられる「こどもの居場所」として月2回以上、「信州子ども食堂及びフードパントリーの開催と同時に学習支援・学びサポート・子どもと大人の交流・子ども・大人のケアなどを行った。これまでに、築いてきたネットワークの繋がりと新たにできた「まちのプラットフォーム」での繋がりを活用することにより、より多くのこどもの居場所の支援に繋がり、新たに始める「こどもカフェ (こども食堂)」の推進につながる事が出来た。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

県で推進するこどもカフェ (こども食堂) の実施団体の抱える課題の多くが、コロナ禍における運営と食材の確保であり、誰でも気軽に交流する場所として「こどもの居場所」をつくりに効果を上げた。更に、食材の確保と支援ができるよう、空き事務所を活用し食糧庫と学びが出来る総合福祉拠点としての成果を上げることが出来た。
①寄贈食材を無駄なく活用することが出来た。
②食材が一家所に保管されていることにより、貧困家庭からの緊急のSOSに対応が可能となり、多くの子育て家庭の一助となった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

こども食堂は、多様性のある「食育」「学び」「学習」「世代交流」「相談」「ケア」等など課題解決の居場所でもある。誰もが、出番(担い手になれる)の場所として、学校でない・家庭でない・第三の居場所としての「たまり場」であるが、多くの人々が集う場所としてコロナ感染対策である3密回避を徹底した「地域のコミュニティの居場所」福祉の総合拠点「まちのプラットフォーム」にしていくことを目指します。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【目標・ねらい】

- ①こども食堂は、「食育」「学び」「学習」「世代交流」「相談」「ケア」等など多様性のある課題解決の居場所
- ②誰もが、居場所と出番(担い手になれる)たまり場であること
- ③「地域のコミュニティの居場所」福祉の総合拠点を目標

※自己評価【A】

【理由】多様性のある居場所(こども食堂・こどもカフェ)の「学習支援」「食事提供」「悩み相談」等の機能拡充を図り、更なる広がりを見せ県内58ヶ所が95ヶ所に増え、今もなお、広がりつつあります。